

第6回市民委員会 第1分科会 討議概要

【テーマ】 コミュニティ～自分の暮らす地域を好きになるには～

平成27年11月8日(日) 午後3時40分～午後5時20分

場所：入札室

出席委員：10人出席／17人中

コーディネーター：伊藤伸

ナビゲーター：原田謙介

事務局：企画課（國吉・後藤）

担当課：総務課防災室 宇山防災室長

【開会のあいさつ】

- ・市民課と介護福祉課の担当者は欠席する旨を報告
- ・座長は終了後打ち合わせをする旨を伝達

【議論】

コ) 改善提案シートの中間とりまとめを元に一時間半くらい議論していきたいと考えている。書いてあることには、相反する意見や、課題は別でも内容が共通している意見もあるが、シートにはそれぞれ記載してある。

(改善提案シートの中間とりまとめに記載してある事項の説明)

→12～15P「高齢者・介護・医療」や17～19P「地域」を中心に

今回はこの分科会に限らず、意見を出していただき議論を収束させたいと思う。

ナ) 人口ビジョンの素案について確認したいが、2ページ最後の、2040年人口35,000人達成に必要な条件の設定に対し、これを実現する具体的な政策はこれから考えるのか。

市) ここでの議論を含めてこれから決定する。

委) 全体会にあった人口設定のベースがわからないと議論しようがない。

人口が減ることは日本全体の話であり、それを踏まえて人口増を目指すのはとても大変だと思う。なるべく減らさないという考え方になるしかないのでは。

人口が横ばいまたは減っても機能する地域社会にすることが大事。先ほどコーディネーターも言っていたが、人口そのものは直接個人の幸せに影響しないと思う。

コ) 人口そのものの変動より、個人の幸せの観点から、移住者が一緒に会話できる環境をもつ方が孤立するよりはいいというのがこの分科会の議論だった。地域によって自治会にばらつきはあるが、近所のつながりを強める方法を議論したい。

委) ひとつの地域の中で、あまり近所と関わりたくないという方もいると思う。地域で支え合うという意識を持ってもらうために、近隣からあいさつや声かけがまず必要だ。

市) 地域独自で文化祭を行っているのは竹岡だけだと思う。地域の皆さんで工夫して

しっかり運営していて、地域を良くするためにやろうと思えばできると実感した。
委) 提供した餅も地元の有志団体が休耕田で育てたものを使っている。年長の人から作り方を教えてもらい、若い人が作業に参加する。みんなができるところをするという考えで行い、文化祭の時はみんなに楽しんでもらう。来場者に楽しんでもらえば、運営側にとっても楽しみになる。

また、市の広報担当の方には、初めて来ていただいた。

市) 今まで知らずに過ぎていました。自分を含め、竹岡に住んでいない人はほとんど知らなかったのではないかと思います。今回は初めに Facebook に掲載して、広報でも紹介したい。

委) 少しずつでも表に出して欲しい。なお、今年は大貫の方から来るなど、今までより来場者が多かった。

委) 竹岡の全地域が対象になるのか。

委) 7つある全ての区の約 900 世帯に回覧する。近隣の老人ホームにも紹介して、作品を出してもらったりもする。

委) 竹岡にいたら、やらなければいけないという性質のものか。

委) 有志で行っているので、参加を強制するようなものではなく、区長主導でもない。

また、別荘地の人たちにも作品を持ってきてもらうことで、来場してもらい交流の機会や永住への転換に期待している。

委) 準備は長い時間が必要では。

委) 春から準備している。

ナ) この取り組みに対し、行政から支援してもらいたいことはあるか。

委) 広報などで周知してもらいたい。他には、地元の芋焼酎や作物を販売する場所作りをしてほしい。

委) 湊に直売所がある。一緒にやればいいと思う。

委) 遠くの妹が富津に来て、地元の野菜を買う場所がないと言っていた。スーパーだとどこで買っても同じだ。

コ) まず、地元で実施して、他の場所の取り組みと組むことでもっと大きくできる。まずは知ってもらうことが必要か。

委) やっている人たちは、地元を固める、自分たちの地域を好きになる方が先決とのこと。

委) ここに遊びに来てもお土産を買う場所がない。漁師はいても魚の売り場や食べさせる店がほとんどない。「君津の味楽園みたいな施設を富津の方に作ったらどうか。」と農協などに提案したこともある。そこには新鮮な地元の野菜があるのでいろんな人が来る。観光地なのに金谷にしか大きなお土産屋がない。

コ) 金谷は観光スポットとして認識されていると思う。

委) フェリーも一時期どうなるかと思ったが、違う形で飛躍して改善した。

委) 人口の話で、ここに住みたいかどうかという観点では、税金の高さもある。近隣市と比べるといやだという要因になると思う。

市) 国保税は高いと言われるが、住民税に関しては近隣との差はない。

委) 口伝えでのイメージばかりで、具体的に各市の税金を比較する人は見かけない。

コミュニティで言えば、竹岡のような地域のいろんな活動を自分の地区も考えているが、負担になってしまい続かない。同じ趣味などを共有できれば広がりも見えてくると思う。いかに人を外に出すかが大事で、犬の散歩でも交友関係が広がったりする。

コ) 富津市は人とのつながりが強いほうだと思う。ここにいる人はそれに息苦しさを感じていないと思うが、もっとゆるいほうが良いという人は。

委) 小さくてもきっちりしている。近所の車がここ数日動いていないというので、自分が回覧を回す機会があったので様子を見に行ってきたら、そのときはなんでもなかった。

何かあったら嫌だという思いはあるだろうし、一人で無理なら二人で、それがコ

ミュニティだと思う。

コ) いいネーミングは思いつかないが、その強みを打ち出したい。町を売り出すときは農漁業・観光などの産業も必要だが、新しく来た人に住みやすさや住民の優しさをアピールできると思う。

委) 嫁いだ時は、表面的なつながりだけで地域を深く知らなかったもので、そういうつ

ながりが嫌だと思ったこともあった。しかし、誰かと関わっていくことは必要なので、今は逆に声掛けや話しをする必要があると感じている。

委) 長く住んでいると、地元の良さがわからなくなりがち。他人に言われて、いいところだと思い起こすこともある。新しくきた人に魅力を伝えるために、普段から地元の人が心掛けておく必要があると思う。

委) 自分の周りで、増税前に家を買おうという人がいて、買う根拠を聞いてみたら、自治会の活動が面倒でない、近所づきあいが楽なところという意見が多い。どうしても面倒だと捉えがち。家を買うときには不動産業者から聞くことが多いようだ。コミュニティの強みをいい意味で伝える方法が必要だと思う。

委) そういうことを行政から住宅メーカーに売り込む必要があるのではないか。

委) 自分の地元では、お祭りをやらないほうが良いという人もいる。若い人にとっては準備から終わるまでが面倒だそうだ。しかし、子どもやお年寄りにとっては楽しみであり、特に子どもにとってはいい思い出になると思う。

コ) 國吉さんは公務員だから仕方ないという考えか。

市) ずっと地元で昔から携わってきている。いろんな人が来るし、地元の何かしらの足しになるだろうという思いがある。

ナ) 自分は中野区にいるが、月に3回自分でごみ拾いをしており、同じような人が他にもいる。行政や地域のコミュニティに所属してなくてもつながりは生まれる

- ので、そのつながりでお祭りの手伝いもしている。こういうつながりを打ち出すことで、他の自治体であまりないような面白い取り組みになるのではないか。
- コ) 自治体活動やお祭り以外の地域づくりは何があるか。
- 委) 地域でばらつきがあるので、自治会なども取り組みについて見直しを図るべきだと思う。竹岡のような人の顔が見えるつながりは、自分の地区にはない。もっといろんなことに生かせる組織作りが必要だと思う。
- 委) やらされるのではなく、いいところを取り入れる必要がある。
- コ) もみじロードはどのように構成されたのか。
- 委) ああいう、人口が少ないところはまとまりやすいと思う。
- コ) そうなると、今の自治会の枠組みよりも小さなコミュニティならできるかもしれない。
- ナ) 犬の散歩仲間のようなものに可能性を感じる。もう少しこういう集まりがある事を知ってもらい、自分たちでもできるという思いを持ってもらう必要がある。
- 委) 大貫～富津の海岸を歩けるが、山登りと同様に、夫が「今日は誰に会った」とか立ち話をしていて、歩く時間より長いくらい会話を楽しんでいる。やはり、外に出ないと、テレビの情報だけになってしまう。
- ナ) 新しく来る人にとっては、知り合いがいなくて道端で誰かに会ってもその状況にならないかもしれない。
- 委) 若い人はまっすぐしか見てなくて、特に女性はその傾向がある。それでは関わりようがない。
- 委) 声をかけられるのが嫌だという人もいる。
- 委) Facebook の移住者コミュニティでは、竹岡や金谷に住んでいる人の富津愛がすごいと思う。このコミュニティを見ると、いい場所はまだまだたくさんあると思う。
- 委) NHK の番組でやっていたが、自治会が同時になくなったところでは防犯灯を撤去したりとすごい状況である。富津市も手当が少なくなるなど、区長のなり手がいない。かといって、行政に戻すと、行政側の仕事が増えてしまう。そうなると、我々の払う税金に影響する。
- 委) 昨日の経営改革会議では、11 億円の財政調整基金を積み立てる方針に対し、委員から計画を見直してでも改革をしてほしいという話も出ていた。というのは、この機に便乗してどんどん進めないと全部だめになってしまうということだ。
- コ) 昨年、財政危機の発表をしたところですが、今年度は固定資産税の収入が予想より多いので、11 億円まで財政調整基金が積み増しできるとのこと。
- 委) あまり成績がいいと地方交付税が不交付になってしまうという話も聞いた。
- コ) 以前から税収が高い方という位置づけで、元から交付額が少ない。
- 委) 銚子市は改革していることをアピールしないで通している。
- コ) 銚子市は今も本当に危ない状況です。
- 委) お祭りでも若い人が少なくなる中、地元の 3 基の神輿が自力で担げないので担

ぎ手をお願いする状況だ。

委) 人がいる場所の方がやりがいがある。誰もいない場所で担いでもしょうがないので、道中は車で移動させている。この辺りの神輿はさしたりするなど、都会よりずっと荒っぽく神輿を担ぐ。

コ) どうしても、お祭りになると今までの人たちのものというイメージがあり、若い人にとっては敷居が高い、それを越える楽しさがそこにあれば。

委) 現在の若い人は娯楽がありすぎてそっちに夢中になりがち。お年寄りはそのような者がいないけれど。

委) 地元には昔の童謡やわらべ歌を歌える人がいる。

コ) 地域の自治会活動に入るかどうかはともかく、防犯・防災や高齢者支援を考えると、その地域でまとまるほうがいいはずだ。地域活動の楽しさと必要性を理解してもらえるか、自治会に入らなくても地域活動をする環境があれば。

委) ライト会員みたいなものがあればと思う。無理なことまで押し付けられなければ草むしりとかはやりたいと思う。ナビゲーターの原田さんの取り組みもいいと思うし、ゆるい形で関わればと思う。

市) 自分も消防団に出ているが、出初式など特別な場合を除いて、勤め後の飲みは度毎には出ていない。親がそういうやり方を歓迎していないし、消防団の職務と飲みは本来別の話のはずで、それが嫌で入団しない人もいる。

委) 夜警の期間は夜中の12時まで残っていたりする。でも帰る人は帰る。お酒が好きというだけでなく、話をしたいという人もいると思う。消防団に昔いたような人だと子どもに勧誘が来たときに交渉が難航するが、新しく来た人は割とすんなり受け取ってくれたりする。昔のイメージで重く受け止めてしまうのかもしれない。操法大会で優勝すればさらに盛り上がるし、輪が広がると思う。富津市の消防団は上位によく行くので。

ナ) 軽い感じで参加するのと、本気でやるのは両方楽しいと思うが、その方向性が違うので、その辺りを念頭に置く必要がある。人を集めたいときは、機会を増やす方が効果は出るので、それを考えてもいいと思う。ゆるい大きな枠組みから消防団などに目を向けてもらう、こうした若い人が少しだけでも参加できる仕組みは作れないか。

委) 市内で私だけかもしれないが、私は毎月区内だよりを発行していた。一番関心を持ったのはお年寄りだった。家の事情で、役員を担当できない世帯もいるが、それでもいざというときは回り近所だけでも協力してもらおうようにしていた。若い人は外に出ていて参加しにくいし、役員もあえて男女で分かれている。

委) お祭りにしても、役員だけでなくみんなが準備などをしてもいいと思う。負担を考えると、ますます手を上げにくいのではないか。

委) 自分の地区のお祭りは実行委員会で、委員長は2~3年やっている。区長になってもお祭りでやることはいろいろある。

コ) コミュニティというのは、「入れ」と言われて入るものではなく必然性が必要。竹

岡や笹毛は地域でやることに必然性を感じている人が多いので、成り立っていると思われる。一方で、必然性が見いだせない人もいる。それに対し、ごみ拾いや犬の散歩などにその人の必然性がある、そこからできるつながりもある。既存の自治会組織だけでなく、趣味のつながりでもコミュニティを作る理由になる。いきなりハードルの高い自治会などでなく、気軽に参加できる場が必要だと思う。

委) その地区にあったやり方を見つけるのが一番だと思うが、昔からのつながりのものが多いので、それを作り直すのもひとつだと思う。

委) 市民委員会に来て、今まで自治会に入っていないことに申し訳なさを感じたし、自治会の存在の大きさをよく知ることができた。一部の人の負担が多そうなので、そこを何とかできればと思う。

コ) 竹岡は900世帯くらいでしょうか。

委) そのくらいです。「有名なのが竹岡ラーメンだけじゃだめだ」という話が出ます。

委) 竹岡まで行くのが大変なので大堀に支店があればと思う。

コ) 昼に竹岡ラーメンで食べようとすると2時間コースになる。

委) 休日はいつ行っても並んでいる。

コ) 犬の散歩をしている人で100人くらいのコミュニティができたとして、そういう既存の枠組みとは違う自主防災組織を補助対象にできるかどうか。

市) 行政ではわからない道など、ノウハウは持っていると思う。

コ) 千葉市では、スマートフォンで地域の状況を吸い上げる取り組みがあるが、犬の散歩をしている人が一番情報を提供してくれるとのこと。ここで出ている意見については、全体会の話を含め、どの程度反映されるか、あるいは意見の良し悪しではなく、抽出せずに一通り検討してもらいたいと思う。

ちなみに、関尻の大わらじは地域で作っているものか。

市) 厄除けのために作っていると聞きます。

コ) そういう話はすごく魅力を感じる。効率化とは別の方向の話だが。

委) お正月に飾り物を燃やして、灰を撒く風習が富津周辺にはある。

委) 節分にイワシの頭やヒイラギを玄関口に飾ったりもする。

コ) そのようなことを小学校の授業で教えているか。

市) お年寄りから聞いたことはあるが、学校では聞く機会がなかった。

コ) 学童保育や放課後クラブなどでもいいと思う。

委) 子どもにそういう話を聞かせるが、最近は反抗期でほぼ聞いてくれない。

委) 昔話って子どもを寝かしつかせるのに良い。

委) 竹岡でも、地域の昔話などを集めてまとめようという構想がある。

【コーディネーターまとめ】

コミュニティについては、入りたくないという人がいるのも、面倒を避けたい人がいるのも事実。しかし、人とのつながりが富津は強いので、不動産業者などを通じて自治会の状況をあらかじめ伝えてもらうなどの必要がある。

地域の取り組みに参加させる手法はいくつもあり、地域のお祭りやイベントがあれば、趣味から入るコミュニティもいいと思う。竹岡の文化祭は、やりたい人が進んで運営しており、人を外に出す要素になる。こうしたつながりは、高齢者の見守りの観点でも必要になると思う。こうした横のつながりをもっと知ってもらうことが今後の課題。

コミュニティの活用については、ゆるいつながりも、消防団のような強固な場所もあっていいと思うし、何かやろうという時は、「やらないと」ではなく、「やってみよう」という楽しさをどうやって見せていくかがキーワードになると思う。こうした意味で、エリア基準の枠組みそのものを見直してもいいだろう。

【ナビゲーターまとめ】

入った時の義務感から距離を置きたがる若年層もいる。やるべきことがあったとしてもみんなが楽しめることを振り分けられればと思う。防災や見守りなど必要なものはあるが、それだけが自治会の必要性ではなく、地域で何かやっていくことが面白いのではないかと思う。

【座長まとめ】

ライト会員のように、自分で参加する場面を選択できる余地があるといいと思う。こうした取り組みが試験的に導入されればと思う。

【市から次回市民委員会について】

- ・ 次回の市民委員会では、総合戦略の素案を示したいと思う。
- ・ 11月29日(日)14時からの予定、別途開催通知を送付

第6回市民委員会 第2分科会 討議概要

平成27年11月8日(日) 午後3時40分～5時15分 場所：502会議室

出席委員：8人/17人

コーディネーター：石井 聡

ナビゲーター：永久 寿夫

事務局：企画課(中山、藤平)

都市政策課職員(宮崎課長、中山課長補佐)

建設課職員(刈込課長)

【テーマ】住環境 ～くらしやすく、移住しやすい環境づくり～

～今日の会議の内容～

- 富津市の都市計画について再度考えてみる。
- 前回までの会議で言い尽くせなかったことを議論する。

《現在の富津市の都市計画について、都市計画図等を用いて説明》

都)現在の富津市は富津都市計画区域(市の面積の13%)と大佐和都市計画区域(市の面積の10%)があり、前者は旧富津町の富津中学校区域で後者は大貫中学校区域となっており、それよりも南の佐貫、天羽地区は、都市計画区域外となっている。市の人口約4万7千人のうち2万2千人が富津都市計画区域、約1万人が大佐和都市計画区域に住んでいる。両者の大きな違いは、前者は市街化区域と市街化調整区域があり、昭和45年にそれが線引きされている。後者は市街化区域と市街化調整区域の線引き化されていない都市計画区域となっている。大堀、青木地区等の市街化区域は都市基盤整備を進めてきたが、市街化調整区域は市街化を抑制するため原則として開発行為はできない。

また、農業振興地域について、市内面積の約8割が農業振興地域に指定されており、これまでの分科会の議論にも出た君津駅に地理的に近いがそのための基盤整備ができていない飯野地区の一部(二間塚、本郷、前久保)は、「良好な営農条件を備えた農用地」に指定されており、小糸川灌漑用水整備など農業のための投資がされてきた地域である。

現在、君津駅に抜ける本郷バイパスが県事業で進んでいるが、この道ができると君津駅までのアクセスが良くなって家を建てるには建設

サイドとしては非常に条件のよい土地となるが、小糸川の県営灌漑事業（三島ダムから富津市内の土地に水を運ぶためのパイプラインの整備事業）を行っている土地で、国の事業として何百億円という農業投資をしているため農業サイドからストップがかかる。平成8年から始まり平成30年までにパイプラインを通す計画となっている。

コ) 市としてはその農用地を利用している農家は多くいて、その後継者もきちんという認識か。

都) 今は農業も集約化が進んでいて、多くの方は兼業ではなく、農家として広くやっている方に任せているのが現状である。

コ) これまでの議論をふまえると、多くの方が青堀駅を中心とした都市計画区域ではなく、君津駅を中心にコンパスを回して、そのエリアに生活圏があった方が土地の魅力を感じているように思える。しかし、そのような都市計画に見直すには今の説明のように難しいと理解してよろしいか。

都) 建設サイドとしては宅地化したい。

ナ) 宅地化した場合と農用地として利用した場合とどちらが収益を生むかだと思う。

都) 小糸川灌漑整備は小糸川水利組合と千葉県で実施している事業だが、お金の出どころが農林水産省なので、その事業を止めたとしてもこれまで農業投資した補助金等の返還義務が生じてくる。

委) 本郷バイパスは農用地に作っていいのか。

都) 道路整備などの公共事業は認められる。

ナ) 昭和45年に決まった都市計画区域は変更できるのではないか。

都) 昭和45年以来、これまでに5回の見直しを行っており、来年度6回目の見直しを行う予定である。

《改善提案シートを見ながら過去の議論を振り返る》

コ) 富津市に人が移住するために、富津市のことをまったく知らない人を呼び込むよりも、一度富津市を出てしまった人を再度呼び込むほうが現実的ではないかという意見が以前出たが、それについてもう少し議論してみたい。

委) 娘が2人いて県外に出ているが、子育てに苦勞している。もっと子育てに手厚い政策を実施すれば、一度出て行った人も帰ってくると思う。実際に実家で両親に子供をみてもらえる方が都会で子育てするより良いと思う。

委) 子育てをしている親だけでなく、子育てを応援している祖父母に対する子育て支援策があれば良い。

委) 都市近郊で富津市の合計特殊出生率がこれだけ低いのは、地理的条件だけでなく、何か別の特殊な原因があると思う。

委) 現在、富津市内には産婦人科のある病院が無くなってしまった。君津市には最近出来たが、里帰りするのに市内に病院がないのは問題ではないか。

コ) もちろん産婦人科のある病院が近くにあった方が良いが、必ずしも市内になければいけないとは限らない。そのために何億も市が出資するのはナンセンスである。

ナ) 昨日、日本政策学校で、題材が「熱海」という政策コンテストの審査委員をやらせてもらったが、一位が「熱育～あついく～」だった。その理由として、熱海に移住者を増やすためには、そもそも熱海が良いところだと子供たちに教育しなければならない、というプレゼンだった。内容は地域の職場体験をしたり、自分の街がどのように成り立っているかを学ぶ機会を増やすなど、「熱海」は良いところだという教育を小さいときからするというもので、富津市も「富育～とみいく～」と称して小さい時から富津が良いところだと思えるような教育をしてはどうか。熱海市と富津市ではそれぞれ良さも違うだろうが、ともかく、子供たちに富津は良いところだ、富津のことが好きだ、とい

う想いを持ってもらうことが大事で、市はそのための努力をすべき。

委) 富津市も中学校で職場体験をやっているが、富津市のことを誇りに思ってもらうために、やり方も工夫ができると思う。今の職場体験では一日だけある特定の職場を体験するようで、あまり地域の人と関わらないように思える。

コ) 静岡県の島田市では、商店街離れが進んでいるのを止めるため、子供の母親に商店街へ来てもらうために商店街のカフェや文房具屋で職場体験をして地域の大人とふれあったり、親が子供を見に行くために商店街に立ち寄ったりしている。富津市がどうかかわからないがイオンモールのようなところでやっても、地域と子供がふれあう様な職場体験にはならない。

委) 農業体験でも海苔の養殖でも経験して富津市にはこのような仕事があるのだと子供たちに認識してもらい、将来の職業選択で自分の街で働くことが選択肢の一つになれば、外へ出て行ってしまうことを防ぐことにつながると思う。

ナ) 将来、その子供たちが市内に留まるか、外へ出て行ってしまいかかわからないが、少なくとも、一人ひとりが富津市のPR大使になれる。

委) 子育てという面で、今のネット社会だとその小学校、中学校の評判がすぐにわかる。学力や生徒、教員の質を情報として収集できるので、親も子供を入れる学校を選ぶ。富津市内の小中学校が荒れているなどの評判が悪ければ、子供を私立や他市の学校に入学させることもある。子供を入れさせたくないような魅力ある学校にしなければ市民が転出する原因となる。

ナ) 面白い保育園、魅力的な保育園は市内にないのか。

委) 和光保育園が市外からも入園するほど評判は良い。

ナ) 小中学校でも、保育園とやることは違うと思うが、何か魅力的なものを構築してアピールしていく必要がある。保育園は他市から来

園するほど魅力的で良くても、卒業した後の小中学校にその良さが続かないと本当の定住につながらない。

委) 富津市の特に海の近くの人たちの言葉使いが汚い。

委) 今は昔ほど酷くなく、標準語で話しているように思える。それはそれで地方の特色が無くなってつまらなくもある。

コ) 20歳の成人式の時に地元に戻ってくることはあるが、20歳の人に地元の職場を紹介してもなかなか難しい。30歳になると少し自分の力量がわかってきて、ふと同窓会で帰ってきたあとに地元で起業なり仕事を始めることがある。この街でそのような可能性はないか。

ナ) 55歳を過ぎた人たちが自分のノウハウを生かして、地元で起業するような話を良く聞く。

委) 20歳、40歳、60歳ごとに成人式をやって、地元に戻ってくる機会を増やすのはどうか。それによって地元での起業なり、仕事につながるのではないか。人生の選択肢を増やすことにもなる。

コ) 富津の魅力をどのように市民と共有するか、どうやって市外の人に知ってもらえるか、何か街の魅力を再発見する良い手立てはないか。

委) ウォークラリーや古墳巡りなどがあるが情報として市外の人にも届いているのか。アピールが足りないのではないか。

市) 広報紙、ホームページをはじめ、フリーペーパーや房総ファミリアに載せて紹介している。婚活をからめたハイキングも実施している。

委) 学校では副読本で富津市のことを教えたりしているのか。

市) 小学校の授業で富津市の産業、地理を教えている。

ナ) 自分の街のことを教えるにしても、知識としてではなく肌感覚で体験できるようなものをからませる必要がある。

- 市) 学校にもよるが、地域を知ろうということで、町工場や花屋さんなどを訪ねて学び、それを学年末に発表したりもしている。
- 市) 東京五輪に伴い外国人をどう呼び込むかというのも総合戦略の一つだが、今、富士吉田市にある富士山と五重塔が一枚の写真におさまる場所に急激に外国人が訪れていて、富津市にもそのような外国人が興味を持ちそうな場所があれば教えてほしい。
- 市) 東京湾観音は、日本とか和を感じさせる大きなシンボルだと思う。
- ナ) 富津市に来たら必ず来るところは上総湊の海岸で、対岸の富士山が夕日と重なる姿は本当に美しい。富津市には凄いスポットがたくさんあり、贅沢な場所がたくさんある。
- 市) 先日も富士山の山頂に夕日が沈む写真撮影会をこの市役所の屋上で実施した。
- 委) 家から富士山が見えるというと市外の人には誰も信じない。富津市から富士山が見えるというイメージが定着していないように思える。
- コ) その場所の良さというのは、そこに住んでいる人が紹介していくことと、外から来た人が違った視点で再発見できる部分もある。富津市の魅力を見つけることと、発信していくことを併せて考えていく必要がある。
- ナ) 以前、フェイスブックで富津に来てアナゴを食べたいということを書いたらアメリカ人の友達が「大定」で食べろと返してきた。さすがに驚いたが知っている人は知っている。お金をかけずにSNS等で富津市を発信していくことが大事でインフルエンサーにちょっと語ってもらうことで多くの人が集まったりする。
- コ) 広報紙にしても、その街を良く思っている人取材して、その街の良いところを宣伝してもらうのも一つの載せ方で「広報ふつつ」をもっとこの街の愛着を高めるための道具として工夫して活用すべ

き。

ナ) 市のホームページもまだまだ工夫の余地がある。単に行政情報を載せているだけで、この街を売るという感覚・意識がない。

委) この前イオンモールで地区ごとに書かれた手書きマップが置いてあったが、あれはすばらしい。あのマップを市内の色々なところに置いてほしい。

座長) 千葉県民マラソンでは何千人もの人が参加して富津市を訪れているので、高校生や選手の遠征先として富津市を使ってもらうようにもっと色々アピールする必要がある。

委) 「市民の声」のポストは本庁舎にしかないのか。イオンモールや公民館などもっと人が集まる場所にも置くべき。

コ) 今の質問が象徴的だが、これまでの市民委員会を通じて、やはり市役所が変わることが強く求められていると感じた。今回の市民委員会をやったことで、市の姿勢が変わった、職員が変わった、ということがどこかに出ないと、せっかくの市民委員会もただやっただけになってしまう。市民参加のあり方も含めて市はこれまでの市民委員会が出た意見を強く認識すべき。

市) 次回は11月29日 開催通知を差し上げる。

第6回市民委員会 第3分科会 討議概要

平成27年11月8日 午後3時35分～午後5時30分 場所：503会議室

出席委員 6人 (18人中)	発言者表示
コーディネーター 露木 幹也	コ)
ナビゲーター 福嶋 浩彦	
事務局：企画課 赤井、荒木	事)
説明員：子育て支援課 小野田	子)
健康づくり課 赤井	健)
教育総務課 神子 木村	教)
学校教育課 須藤	学)

【テーマ】子ども・子育て～子どもの笑顔があふれるまちへ～

コ) 全体会で話があったとおり、今日の最終的な目標は、意見提出シートをできるだけ出すこと。今まで出た意見は、資料3にまとまっているが、その内容を確認しながら具体的に深掘りをして記載してもらうこととなるのでよろしくお願ひしたい。

その議論に先立って、全体会で人口推計の話について分かったような、分からないような結論だったように思うが、実際に今富津市では3万5千人という数字は、年少人口を現在の程度維持したい、資料1の人口ピラミッドの形を考えると3万5千人になる。だから3万5千人という設定にしたいということで良いか。

事) はい。

コ) このことについては、皆さんご理解いただけたらどうか。それがどうなのかという議論は当然あるとは思いますが、今回の富津市からの説明ではそういうことである。

ナ) 今までこの分科会は、ど真ん中の分科会ですよね、年少人口は。この分科会で話していることいろんな提案が出たこと。学校給食の添加物公表も含めて全部完璧に実現したとして出生率2.1になると思うか。

コ) 数字について問題がある。確認だが2040年までに目指すのは1.83。その先で2.1でよいか。

事) 2040年に2.1である。

コ) そこまでの間は1.83で進むということで良いか。

事) 2040年に2.1を目指す。なお、その後2.1で推移した場合に資料1②の人口の推移のグラフで示した形になる。

ナ) ここで議論したことが全部完璧に実現したとして、その流れでやっていると2040年に2.1になると担当者として思っているのか。

子) 子育て支援課としては、具体的に全部実現しても2.1は難しいと思う。少子化というのは、子育て支援のこの施策だけで解消されるものではないと思うので、総合的な施策の結果となると思うので、これだけをもって2.1が可能とは思えない。

ナ) 人口ビジョンの担当としては、他の分科会を含めた議論を実現したとして、2.1になると思っているのか。

事) 出生率 2.1 は、富津市の将来人口を推計するにあたり、まず人口維持の水準として、どの程度の数値を設定したら、人口が維持できる形を示すことができるのか。という考えからこの推計づくりが始まっているところはある。

その中で 2.1 という数字がどのように出てきたかは、人口置換水準という数字を採用しているとの答えになる。

先ほどナビゲーターから質問のあった 2.1 が達成することができる数字なのかは、今現在の段階では 2.1 が必ず達成できる数字であるとは、個人的には思えない。

ナ) 必ずでなくとも、十分に達成できるとか、もしかしたら達成することができるとか、少しでも達成できると思うか。私は必ず達成できないと思う。2.1 はとんでもない数字である。今の富津市民の希望をさらに超えている。

事) 現状の調査における富津市民の希望出生率は超えている。ただ、現状での調査における希望出生率であり、25 年後の富津市の希望出生率が増えるか減るかはわからないが、出生率 1.83 が達成できる環境であれば、さらに上の 2.1 を目指して行くことも可能ではないかということで 2.1 を設定しているものである。

ナ) 今、言ったとおり減るかもしれないのですよね。

事) はい。

コ) 基本的に、全体会でナビゲーターが言ったとおり、推計ではなく、あくまでも希望。市が希望する数字であると、理解いただければ良いのかなと思う。

事) その点についてナビゲーターが言うとおりの、3 万 5 千人を目指す施策という議論をしていくのは、将来推計というところで確実性があるものではないと個人的には考えている。仮に 2.1 が達成できたとしても、資料 1 ②を見ていただくとお分かりになるかと思うが、2040 年に直ちに人口減少が下げ止まるというわけではない。このことから 3 万人の人口で持続可能な富津市については、市としても議論いただきたいと思う。実際に 2040 年に出生率 2.1 を達成したとしても、2060 年には 3 万人を下回ってしまう。超長期の推計となるため、グラフで示した推計となるかは疑問もあるかと思うが、3 万人の人口で持続可能な富津市について議論いただくことは実のあることであると個人的には考えている。

ナ) 先ほど課長は、違うことを言っていたが。

コ) 3 万人という人口も、社人研の推計が 2040 年に 3 万人というだけの話で、その 3 万人という数字があるのであって、では実際に富津市の希望どおりにいった場合でも 3 万人を割り込む。3 万人を維持する社会を考えるだけでは駄目な訳ですよね。問題は。

その先をどこまでどう読んで、何をしていくのかという、その先をどう読むのか。どういう社会を作りたいのか。いろいろなことが考えられると思う。

例えば富津市の場合には、エリア毎に特徴があるので、同じ様に減っていく区域と、もっと激しく減っていく区域、そうでない区域が必ずあるはずである。ではそういうところで、どこでどういう施策を打つのか。私はエリア毎の色分けをすることが大事であると考えます。

ただ、いずれにしても人口というのは結果論として出てくるものでしかないので、そこに向けてやりたいという気持ちは分かるが、私もナビゲーターと同じくこれを達成す

るのは相当難しい。まず不可能であると思う。だからそれを想定したまちづくりを念頭に置いた中で戦略を立てて行く必要があると考えて行く必要があると考える。

ナ) 目標であることは、3万5千人を目指すということは、もちろん最終決定ではないとしても、今の市の考えとして明確に言っているわけですね。

事) はい。3万5千人を目指すまちづくりをするための議論をするということで、市の考え方を示している。しかし、ナビゲーターの言うとおりの最終決定ではない。

ナ) これから議論するというが、散々議論してきて、それを踏まえて考え方を示すということで一定の重さを持っていると私は思う。まだ、これから議論してどんどん変わるという時期ではない。

今日結論を示すと言われてきたわけで、最終決定でないにしても、今までの議論を踏まえたかなり重い市の方針を示されたということであると思う。それが依然として3万5千人。要するに若年層を減らさない、移住人口を300人としている。

事) 人口の維持を主とした推計となっている。

ナ) では、その根拠を。こうやればできるというのは何も示されていないですね。

事) 現状では、提示できていないと認識している。

ナ) それを、この分科会で考えろといわれても私は困ると思う。

コ) この分科会が考えたことで、これが維持できる。そこに責任を負う必要はまったくないと私は考えている。委員の皆様は、人口を増やす、これは結果的に増えればよいかも知れないが、まずは、子ども子育てをしやすいまちづくりをするために何が重要かという根本からスタートして良いと思う。

最終的に責任を持つのは、総合戦略を作った市が責任を持たなくてはいけないのは当然のことである。その議論をあまり続けて行くと、この分科会の提言が大事なところが漏れてしまうので、そこを理解いただきたい。

ナ) そこがすごく大事で、そもそも出生率を2.1が目標だと行政が言ってしまっても良いのか。根本的な話として、1.83というアンケートでの市民の希望をきちんと実現するために頑張るということでは、まだ、議論はあるのかもしれない。しかし、希望を超えて2.1が目標であると言った途端に、行政としてやったら絶対にいけないことをやってはいないか、ということである。それを良いと思うのか。

委) ちなみに2014年の富津市の死亡者数653人に対して出生数228人である。

ナ) 富津市は市民に対して、「市民の皆さん、あなたたちが希望している以上に子どもを産まないで富津市は潰れますよ」と今日言った。本当にそれで良いのか。

事) 全体会で課長が説明したとおり、子どもを産む・産まないということは、個人の価値観によるところであることは、内部でも議論はあったところである。

ナ) その議論を経た結論が今日の説明ということか。

事) 本日は2.1を含めた考え方を示すということで、先の全体会で説明させていただいた。

ナ) 良いという判断をしたということですね。

事) 2040年までの人口ビジョンを策定するにあたって、一つの区切りで中間時点1.83を設定し、・・・

コ) 数字の設定というのはあくまでも数字の設定なので、そこにどういう意味を持たせる

のかという点については、議論は必要なのかもしれないが。

例えば、これまでの富津市の説明を聞くと、当面は今市民が希望する 1.83 を目指して行く。それを達成した先にもしかしたら、希望が 2.1 になっているかもしれない。なっているなら 2.1 を目指すということであれば、そういう議論であれば、話は分かると思う。それを始めから 2.1 ありきで説明するから違和感があるのではないか。

事) それは、2040 年に 1.83 を目指して、それが達成できるのであれば、2060 年、人口ビジョン 2040 の中には記載されないが、2.1 も目指せるのではないかという考え方であれば議論の余地があるということで良いか。

コ) その説明を今までしてきたのですよね。その時点で、1.83 だっていつまで 1.83 か分からない。上がるかもしれないし、下がるかもしれない。だからそれを上げる方策を立てたいというのが、今の話ですよね。だったら子育てしやすいまちづくりをしていこうと。そういう戦略を立てたいということですよ。

ナ) だったら 1.83 で止めて…

コ) 私も止めたほうが良いと思う。

ナ) 1.83 だってかなり難しく、1.83 だって実現しない可能性の方が遥かに高いように思う。1.83 で止めて、とにかく一生懸命にいろんな施策を実施しよう、子ども子育てが中心として、ということをやっていくのが良いと思う。ということに明確に変える。

これは今、初めて言ったのではなく、私はずっと前から言ってきたことである。それで今日結論を示す、考え方を正式に示しますからと言われてきたのが、先ほどの全体会の説明ですよ。これから議論するという話ではないはず。やはり少しずつ話をずらし曖昧にする。口では色々な事を言って、もやもやとして次に行こうとしている。全体会で委員が、交流人口が大切であるという意見を言ったが、交流人口が大切であると言った委員には、定住人口、住民票上の人口を増やすことに捕らわれずに交流人口だって大事だから…

委) 富津市に来てくれるうちに、遊びに来る人はたくさんいる。魅力的だと言ってくれる。じゃあ住んでも良いと。結果論で 3 万人が 3 万 5 千人になれば良いのであって、初めから 3 万 5 千人ありきであれば無理をする部分が出る。子育てにすごく特化した魅力あるまちですと言えば、1 人増え、また 1 人増え。それで良いと思う。3 万 5 千人ありきで始めるから理論がぜんぜん噛み合わない。

ナ) そういう趣旨での発言だと私は思った。だけど課長の答えは「交流人口の増加は大事だから、交流人口の増をどうぞ皆さんで議論してください」だった。それはそうかもしれないけど、言われたことは「住民票人口にこだわるな」という意見については、何も答えずに交流人口という言葉が出たものだから、「交流人口を増やすのは大事だからどうぞ皆さんで議論してください」で終わっていた。それは答えのすり替えである。私は、それをずっとやられている印象がある。

初めに言うておくが、ナビゲーターの出席は毎回ではなく、今回は最後の出席になる。委員だったら賛成反対の意思表示ができるが、ナビゲーターは意思表示する機会がない。散々私なりに働きかけてきたが、今日の答えとなった。この答えに抗議して、私は本日の会議の途中で辞任します。それしか意思表示ができないので。とは言ってもどのみち

今日が最後の出席ではあるが。ということで、今日は一定のところ区切りをつけて辞任する。それが私の意思表示である。

だから、人口問題は皆さんに託すが、是非、明確に書いてもらいたい。どう考えたって、1.85 だったか（希望出生率が上限）。

事) 希望出生率は1.83。

コ) 私も行政にいますので、大体全国の自治体が、人口推計というものを多分希望的数値を置いて、それに向けた取組をどうしようか。ほとんどがそういう総合戦略を立てているし、いままでもそういう総合計画を立ててきた。だけど現実を見たときに「本当にそれで良いのか」ということを警鐘しているのが、ナビゲーターの考え方である。あくまでもそれを反対しているとか潰すとかではなく、富津市の将来を考えた場合に本当に何を主に置くべきかということ真剣に考えた方が良いのではないかと。という提言だったと私は考えている。こういうところを市の総合計画を作るときに言ってくれる人はまずいないので、本当に富津市にとっては重要で真剣に考えるべきことなのではないかと思う。

小田原市の場合も多分、企画が適当な数字、適当と言ったら言い方がおかしいかもしれないが、こうありたいという数字しか置けないんですよ。そういう意味でも真剣に考えるべきではないかということは、本当に真摯に受け止めて、最終的に総合戦略を策定していただきたい。

ナ) 1つだけ紹介したい。富津市民委員会のような、無作為抽出の住民の皆さんで総合戦略を作っている自治体が、私の知る限り富津市以外に2つある。その中の1つに香川県三木町があり、私はそちらにも関わっている。三木町の総合戦略は既にできているので、インターネットで見てもらいたい。本当に見事に、完璧であるとまでは思わないが、無作為抽出の住民の会議の議論をベースにして作っている。最終の計画は、それがすごく見える計画になっている。

実際の計画の文面も、百眼百考会議という名前の会議だが、その会議でこういう議論があってそれを受け止めてこうしようと、最終的な計画の文がそうになっている。是非眺めてみて参考にしてもらいたい。

ちなみに三木町の出生率は、現在の出生率がそのまま続くという前提にしている。出生率はいろんな政策を行った結果として現れるもので、行政が目標にするものではないという考え方で、今の出生率がそのまま推移するという前提で人口ビジョンを作っている。

三木町の隣は高松市で大きなまちであるが、「高松市から人口を奪うんだ」という町長の強い思いで「流入人口を高松からとってくるんだ」と。計画には高松からとるとまでは書いていないが、そういう思いで作ってあるが、出生率は一定にしている。私はそちらのほうが本来であると思う。

コ) その辺りを踏まえて、本来のこの委員会のテーマである子ども子育てをしやすいまちにするためにはどういう施策、「市民がどういうことをしたら良いのか」、「行政でどうしたら良いのか」、「色々な団体がこういうことをしたら良いのではないかと」。また団体がなければ「こういう団体を作ったらどうか」、そういうことも一応の提案としてはあると思う。

その辺りで、今までの会議で出てきた提案シートの意見の中に鍵となるものがあると思う。今日の資料で行くと6ページの子ども子育てに関する部分になるかと思う。

初めに、課題「子どもや子育てについてワンストップで相談できる窓口がない。」について、要は「窓口があった方が良く」という意見ですよ。

この部分について前回のときに説明をいただいたが、全てを1つの窓口で対応するというのは難しい部分があるけれども、それを上手くつなげる方法は考えられるというような意見・回答をいただいたので、この部分については何らかの形で、戦略の中に反映され具体的な対応をされるのではないかと思うがよろしいか。

子) はい。

コ) また。一番最初の討議から出ている意見として、「子どもや子育て世帯とのコミュニケーションが不足している」があり、「富津市では子育て世帯のコミュニケーションが取り難い」という話があった。これは、本当に今後大事になってくる話だと思う。このことについてもう少し具体的な、私が一番最初の討議の際に提案したように「公園について、子育て世帯がプロデュースして公園作りをする」、要はできた公園が大事なのではなく、作る場所から関わって行く、そういうところが大事であると思う。そういったところを入れながら、いろんな話が出てきていると思うが、少し振り返りながらもう一度その辺りを具体的にこういうことが良いのではないかという意見をいただきたいと思う。

委) 窓口についてできないということだったが、できると思う。市の職員はずっと同じ部署にいるわけではないのですよね。

事) 人事異動により部署が変わる。

委) そうであれば、他の部署の仕事がわからないということは無いのではないか。

事) 理論的にはそうかもしれないが、市民が相談に来たときに子育て担当窓口配置されている職員が、子育てに関する手続きや相談に必要な知識を取得できる部署を回ってきているとは限らない。

委) 私が言いたいのは、その人に回答してくださいと言っている訳ではない。何でもそこで相談できる、そういう人を1人2人窓口配置することができないかと言っている。

コ) 課題はあると思うが、可能だと思う。ただ、人を配置するというのであれば、他の部署から人を持って来る・・・

委) 人を配置しなくても良い。窓口で予め対応できる職員がいなくても、手が空いている職員が対応できる職員を連れてくれば良い。それは、管理職だってできると思う。

コ) 前回会議で、そのシステムであれば可能であると回答したものであるので、市の内部で議論してもらって、多分できるのではないかと思う。

ナ) 簡単なことですよ。何が難しいのか。

事) 難しいと答えたのは、1つの課の職員だけで全ての相談や手続きに対応することが難しいことを意図したものであって・・・

委) 1つの課で対応してくださいとは言っていない。

コ) それは前回会議で、委員の発言をよく理解していただいて上で「可能である」と答えているので、是非実施してもらいたい。

委) 先週、子育て講座を市民で開催することになって、全5回の会議であるが、第1回に参加した。その講座は障害のある子どもを対象とした講座だった。2回目以降は、子どもの障害に応じて、個別班別にこれから参加者で子どもを褒めながら、どうやって育てていけば良いか定義しながらやっていく。

その講座は社会福祉課が実施していた。子育て支援課なのか学校関係なのか、というのがあって、窓口は社会福祉課であり、子どもに関することについて社会福祉課の担当と話をした。訪れる側からすると、市役所で子どもに関係する部署がフロアーがまとまってくれた方が見えるし、今の延長で、位置を決めるときに、社会福祉課と子育て支援課の内容であれば近くにいれば、もっと簡単になると思う。

30分の予定が1時間、色々子育てについて話したが、障害がある子どもではなく、学校に通っているがグレーゾーンの子どものどこに入れば良いのか。それを質問したら、自分も同意見であると市の職員が言っていた。しかし、自分は社会福祉課なので、障害のある子どもを対象とした講座をやるしかない。縦割りをしないで、実際就学児でも困っている親はいると思う。まして、核家族化しているので相談者に困っている人は増えていると思う。縦割りをせずに横つながりで講座を組むことができないかを話した。

今、学校で、家庭学級というものが前はあった。ここ4年子どもが小学校に行っているが、家庭学級というものが全くなくて「親子レクリエーション」という名目になっている。社会福祉課の職員と話したが、家庭学級があれば、グレーゾーンにいる子どもや健常児であるが、親が子育てに関して不安に感じているなど、全部同じフロアーで相談できればと思う。または、横繋がりで講座ができないかということ为先週その職員と話した。

子) 子どもに関する部署が、同じ階にまとめれば良いというのは、市としても考えている。こういう庁舎の作り方やスペースの関係で実現に至っていない。

担当としてもそれを理想として、少しずつ変えていて、以前は社会福祉課の隣に児童家庭課があって、そこはそこで関係を取りやすかった面があるが、市民課で出生届けがあったときに、母子手帳や予防注射の関係で健康づくり課で手続きがあることから、同じく出生後に子育て支援課で児童手当などの手続き等があることから、健康づくり課の隣に移動した経緯がある。少しでも市民の利便性が高まるようにと、全てを一箇所にはできない状況であったので、まずは健康づくり課の隣に移動した、という経緯がある。

現在は、窓口に来た市民に移動してもらうのではなく、健康づくり課と子育て支援課では担当者が行き来して対応している。どうしても行政組織の配置関係があるので、理想は委員の言うとおりの、子どもに関する部署が近くに集まっていることが望ましいと思っているが、少しずつでも改善するようにしている。

ナ) 子どもに限らず関連する部署が集まった方がよいというのは一般論として、そのとおりだと思うし、追求することは当然だと思う。ただ、子どもの全体の窓口を、子ども関係の部署を集めて一緒にして作るという発想では決定的に不十分であると思う。

子どもに関することは、市役所全部が関係する。公園担当だって子どもに関係する。子どもの遊び場をどう作るかなど。商店会を担当しているところも、商店で子どもをどんなふうにとらえて、どういうふう子どもに接して行くのかなど、商業関係の課も関

係する。道路だって子どもの通学路の安全なども子どもに関係する。全部に関係する。子どもの窓口は、子どもの窓口で全部担当するという考え方はそもそも捨てて、子どもに関係することを全部繋ぐんだという発想でやったほうが良いと思う。子どもに関する相談は全部受ける。通学路の苦情だって、学校に困った先生がいるといった苦情も全部受ける。そして市役所全部に繋いでいくという発想で是非やってもらった方が良いものになる気がする。

事) 私が第4回での委員の発言を誤解していたので、確認をさせてもらいたいが、1つの課で受けるということではなく、そこが全部の市全体の課を連係させる、間を取り持つような体制を作るということで良いか。

ナ) 良い。ただし、本当に全部の課を繋ぐということである。例えば、「通学路の道路が壊れている」のは道路管理の担当があり、通常は子どもの全体の窓口の外にある。あるいは「学校で変な先生がいて困っている」とか「イジメが～」という、それは「学校の方に」と対応するんですよね。子ども全体の窓口と言いつつ、教育委員会は別みたいな。本当に全部やったら、結構面白いものになる。さすが富津市と言われるようになるものを作ってもらいたいと思う。

コ) 他に意見はあるか。先ほどまでの議論では、行政に関する意見が多数でているが市民でとかNPOとかはどうか。私は富津市の現在の状況は分からないが、例えば子育てサークルとかそういう子育てに関わって行くNPO又はそういう市民団体はどの程度あるのか。

委) 根本的にあるだけ。全体的な横の繋がりが無い。

委) それも先週話をして、就学問題、学習力の不足。子どもの貧困。話すときに無いが、それを全てボランティア若しくは市の補助を受けて個人で教えて上げられる人そういう人たちを連係して活用できないかという話はした。

委) いろんなことをやろうという時に財源の問題は忘れられない。それを置いては議論ができない。例えば「2千万を充てましょう」とした場合に、どうやって捻出するか。市議会議員を3人減らせば捻出できると、以前から言っている。市の職員からは言えないことかもしれないが。市民も市議会も市の職員も皆に関わることであるので、そういうアプローチも必要だと思う。

コ) 富津市の場合、今財政の問題は大きな課題になっている。その中で行政が、優先順位をつけて行く、その総合戦略の中でどういう位置付けをしていくかということであると思う。富津市は何に優先してお金を使って行くかという選択も必要になる。

委) 昨日経営改革会議があったので、傍聴していた。何を根拠に黒字になるのかなど、厳しい発言を受けていたが。

コ) その中で、先ほど言ったように子どもの人数を増やしていこうということが最大の課題であればそこからお金を使って行く、ということになると思う。ただ無駄にお金を使いたくはないので、そのために効果的な方法はどうしたらよいか。そこを市民の皆さんと一緒に考えていかなければいけない。行政だけで考えると無駄なお金を使ってしまうので、そこを考えることが大事であると思う。

委) 最終的に予算がないからそこで終わってしまう可能性がある。

- ナ) 予算をどこに重点配分してどうするかというのは、当然総合戦略の課題でもある。それは当然最後は、選挙で選ばれた市長と議会が決めるが、その過程でいろんな議論をしていく時に、誰が議論をするのか。
- 委) 議会と市が繋がっていないですよ。
- コ) 当然これからの創生会議の中でもそういう議論がされるということで良いですよ。
- ナ) 創生会議で議論して、市民委員会で議論しない。市民委員会はやることを提案するだけ、その中のどれが大切であるかは、創生会議が決める。私は、それはふざけていると思う。
- 事) 富津市の予算編成方針については、現在、枠配分ということで各部局ごとに平成28年度当初予算の要求を行っているところであるが、その枠とは別に地方創生関連事業にかかる予算については別途予算計上し、特別に実施するといった形を考えている。
- コ) その配分は、最終的にどこが判断するかというと創生会議ということか。
- ナ) 地方創生関連事業費は枠配分でいくらなのか。
- 事) その点については資料を作成していないため、回答できない。
- ナ) 端数はともかく、ボリューム感がない状態で議論をしていること自体が驚きである。
- 委) 意見を出したとしても、最終的に予算が100万円しかありませんでしたでは、意味がない。
- コ) 最終的には位置付けとして優先順位をつけることは分科会ではできないと思う。分科会が提案するものに優先順位をつけることは分科会でできるので、今日はこの意見提出シートを書いていただく中で自分なりの優先順位をつけていただいてもかまわない。
- ナ) ここで、最終的に市全体の予算に優先順位をつけることはできないのは分かるが、市民委員会の意見に関する優先順位を、例えば創生会議で総合戦略の事業に優先順位を設定したとして、その順位が良いかどうかも一度市民委員会で議論する場はあるのか。それは、素案ができた時に議論できるのか。そうでないといけない。
- コ) 創生会議にかけた資料を元に、次の11月29日の市民委員会で議論をするということですよ。
- ナ) ボリューム感が分からないというのは、それはないよと言いたい。
- コ) 出席者の中で把握している人はいるか。
- ナ) これは笑い話だが、事業仕分けに出席していた教育委員会の職員に「富津市の予算総額はいくらか」と質問したら、誰も分からなかった。その辺り財政的な意識が必要ではないか。
- コ) 一般会計予算はどれくらいか。
- 事) 156億である。
- コ) その中で、どのくらいの枠をとっているのか。
- 事) 枠配分とは別枠となるが、別枠の総額については把握していない。
- ナ) 予算総額の中にはあるはずですよ。
- コ) 当然一般会計予算ですよ。特別会計を組む話ではないので。一般会計予算の中でいろんな分野があって、それぞれの所管について別枠であると思うが、総額としての枠をとっているという事で良いか。

事) はい。

コ) それでは次回には、示せるようにしてその中でどういう優先順位を付けているのか委員に見てもらわないといけない。

ナ) 意見を提案するのに、例えば予算が1千万であれば、施設に関する提案はできない。ソフト事業しかできない。50億なら、また話が違ってくる。

事) 財政の担当に確認する。

コ) そろそろ意見提出シートを書く時間が近づいているので、先に進める。

先程、全体会議の中で班長から話があった食品添加物の件について、教育総務課からは現時点において栄養士にお願いするのは無理だと。それで、無理だというのはわかるが、ただこれから出てくるものについては一つの方法だけではなくていろんなやり方が考えられる。例えば、経費をかけてやるかは別として業者に依頼して食品添加物を分析させたものをデータ化することもできるだろうし、保護者で得意な人にやってもらうなどが考えられる。それを栄養士にやらせようとするのは無理だというのはわかった。

委) この間、改善提案シートに私にやらせてくれないかと書いた。

コ) 例えば、委員が言ったとおり市民に活躍してもらうのも良いと思う。

委) 食品会社のページを引くと、その加工品について何が入っているか全部公開されているからできないことはないはず。

委) 栄養士が全て把握していると聞いている。それを打ち込めばいい話。それであれば私たちにもできる。ただし、ホームページの専門的なことはわからないので形式さえ作っていただければやれる。

事) データ化するところまでは市民で作成し、公表する場として市のホームページを提供するという解釈で良いか。

コ) 是非、検討していただきたい。

委) 栄養士ができないはずがない。

ナ) 栄養士は何人いるのか。これまで自校でやってきたものをこれからはセンターに変えるのですよね。変えたのですか。

教) 現在調理場は4箇所あり、それぞれ栄養士を配置している。

ナ) 自校のときは栄養士がいなかったのか。

教) それぞれの調理場に1名配置されている。

ナ) 共同調理場にすれば栄養士に余裕ができる。栄養士ができないというのは嘘のような気がする。市民がやってくれるということであればそっちの方が素晴らしいと思うが。

教) 市民の方が時間を割いて協力してくれるのはありがたいことだと思う。前回説明が不足していて申し訳なかったが、学校給食というのは市場に市販されているものしか使っていない。厚生労働省の基準以下のもの、また文科省で学校給食衛生管理基準になっているもの。さらに、各県下に配置されている学校給食会で審査されているもので安全なものである。ですから、税金をかけてどこまでホームページで公表する必要があるのか。だったら、栄養士もいろいろとウイルスの問題とか検査しているが、そちらに力を入れた方がいいのではないか。添加物がいけないと言われても、富津市はそれに対して根拠も何も無い。厚生労働省が良いというものを富津市がダメだということも言えない

ので…。

委) 良いとかダメとか言っているのではない。こういうものを使っていますという内容を出してもらえれば良だけで、別に不都合はないのでは。

教) それは前回の会議でも申し上げたが必要であれば開示する。広く市民の方に伝えてどうなのかとも思う。

委) その話が出たから今手を挙げた。それにいろいろなことが関連してくるのだが、今食の安全とかをとっても気にする人が多く、バブル期と比べて年収が少ない人が多く、また安全な食品を作りたいということで農業に関心の高い人も多く、その面で見ても富津市はとても良い市だと思う。人を呼び込むにも、いまの給食のことだけでなく、農業地もこのまま知られずにいたら後継者がいない所は荒廃していってしまう。食の安全に力を入れていることをアピールして、興味を持っている方たちは全国にたくさんいると思うが、そういう人たちを呼ぶために、市が親身になって相談に乗ってくれる。また、斡旋してくれたり、新規に農業や、農業に限らず漁業でも良いが、始めたい人たちに対して支援してもらえれば耕作休耕地で荒廃していってしまう所も後継者ができたら良いと思う。先ほどニーズがどれだけあるのかという意見が出たが、そういうことを気にする人はたくさんいる。「ここで見るができる」という場所があれば、見たい人はただ見るだけで、一般に販売されているものでも、日本で良いとされて添加物が入っているものが売られている訳だから、見たからと言ってどうこう言うわけではない。ただ見たいということだけなので、それを手軽にできる場があれば良いなと思った。

コ) 要するに市民のニーズと行政の出そうとする責任が全くズレている。行政側の「安心だから出さなくても大丈夫です」というのは市民のニーズではないということ。安全であるかどうかを聞いているのではなく、どういうものが入っているのかを知りたいということですね。そのニーズに答えられるかどうかということ。行政はそこにお金をかけられないから、市民がやっていただけるのであればぜひ取り組んでほしいというのが1つの方法ということ。

委) お金はかからない。

コ) 私が挙げたのは1つの例であって、いろんな提案が出てくるものに対し、一方向だけ見てこれができる・できないとかそういう議論をしてほしくない。いろんな方向から考えないと良い意見は出てこないの、一例をあげさせてもらった。

ナ) 「厚労省が認めた添加物なんだから大丈夫なんです」という発言は撤回してもらいたい。事業仕分けのときに「センター方式になって半加工品は増えるができるだけ添加物の少ないものを選んで対応する」と強調していた。今言っていることと全然違う、二枚舌ではないか。市民の「知りたい」に応えるとともに、「富津市はセンター方式になって加工品が増えることになっても、添加物の少ないものを選んでいく」と言っていた。加工品に入っているものは全部厚労省が安全だと認めたものだが。その中でも「少ないものを選んでいく」と強調していた。今言っている事と全然違う。

教) ナビゲーターが言ったとおり、私が事業仕分けの際そのように答弁した中で、今の教育総務課長の発言は、添加物の使用の多少に問題がないということではなく、どうしても加工品を使わざるを得ない状況にあるため、その中でもできるだけ少ないとされる学

校給食用に作られた加工品を使用しているの、やむなく加工品は入っているが少なく入っている添加物でも厚労省で認められているものであるということ。

ナ) 多く入っていてもそれは厚労省で認めているものであり、基準を超えるものは流通していないはず。

教) 量の問題を申し上げた訳ではない。

ナ) 量も種類も一緒である。課長の発言は撤回してもらいたい。厚労省が認めたものだからそもそも「大丈夫です」という話は違うのでは。

教) 課長の発言は言葉が足らなかったのかなということになってしまうが…。

コ) 安全だと厚労省が言っている問題と市民の感覚は違うことはわかっているはず。わかっているから市はできるだけ少ないものを使おうとしている訳である。わかっているから「このような意見が出てくるということ」を当然だ」と思っていただければ良いと思う。

ナ) 農薬も農水省、厚労省が認めたもの。でも千葉県は低農薬をできるだけ広げていこうとエコ農産物をやっている。国が認めたのだから安全だというのであれば、別に低農薬の取組は必要ないではないか。市はそうではないと言っていたはず…。

教) できるだけ添加物の少ないものを栄養士が選択をして使っていくと、説明している。

コ) 少ない方が良いという感覚は当然あるんですよ。

教) もちろんある。

コ) だから「どんな添加物が入っているか」と思う市民がいるということを感じてわかるのではないかと思う。

ナ) 率直に大変だと思う。学校給食会の加工品だって添加物を表示すればたくさん入っているはず。それを全部公表したら不安になって、今まで関心がなかった人も「本当に大丈夫か」と思う人は必ずいる。それをあえてやろうというところに富津市の特長を出せるのではないかという議論である。課長のされた話はそれをひっくり返す話で、それは違うと思う。大変ではあるが全部オープンにするとしたら、食の安全を気にする人たちは、「今住んでいるところは公表していないけど、富津はこんなに真剣に取り組んでいるのか」と思ったら、富津に行こうという人もいるかもしれない。

教) 課長：私が言いたかったのは、厚労省で基準があり、文科省の学校給食衛生管理基準でさらに厳しい基準があり、さらに学校給食会ではさらに厳しく審査している。

だから「給食は安全だ」ということで、特に添加物まで表示するとなると…先程まで不安になってしまうという話がでていたが。

委) 市民の声はいらぬということか。今の発言は、そのように受け取るが。

教) 前回の会議でも話したが、必要な人にはいつでも提示する。

委) 必要な人じゃなくて、気軽に閲覧できるものを作れば1回で済む。

教) どこまで必要性があるか。どこまで税金を投入したらいいのか。

委) ホームページを作成し、食品添加物を表示するのにお金はいらぬ。栄養士が食生活改善推進員に対して労力を使うことを考えたら、その日の献立を載せるのにソフトもいらなければお金もいらぬ、簡単である。

教) 前回委員の発言にあったが、信頼関係というのが一番大事だと思う。

ナ) あなたみたいに言い方を変えると、信頼関係がそもそも成り立たない。

コ) 出たくないということか。

教) 決してそのようなことではない。

委) であれば、出してもよいのでは。それで市民が判断するのだから。

コ) 出たくないということでなければ、後は誰がやるか。そこに行政が税金をかけるのは現状難しいということなのですよ。

ナ) 根本的に教育総務課長と係長が言っていることが違う。課長が言っているのは「厚生省が認め、学校給食会が基準を作り、それをクリアしているものは安全です。別に心配はいらない」と言っている。それなら「より添加物の少ない方を選ぶ」という話ではないではないか。

教) より少ないものを審査して使っている。だから安心して下さいということ。

ナ) つまり、「栄養士・教育委員会がより少ないものを選んでいきます」というわけではなくて、「学校給食会が認めたものを選んでいいるから、それはもうより少なくなっています」ということですよ。

教) 話をまとめさせていただきたいが、各食品会社で学校給食用に作られている加工品というのは、市場のものより添加物が少ないというのはご承知いただいていると思うが、例えば、1つの商品を、その同じものを取り扱っている会社で比べてその中でも「添加物の少ないもの、アレルギーが入っていないもの」ということを栄養士が選定して購入し、提供している。

ナ) つまり、課長が「学校給食会の基準をクリアすればみんなOKです」という発言は違うということか。

教) 給食会がOKであれば、なんでもOKだという意味合いではない。

ナ) 課長は給食会がOKしているものはすべてOKだと言っている。

教) そういう意味ではない。3段階で審査してより良いものを使用しているということ。

ナ) 3段階（厚生省・文科省・学校給食会）で審査してそれ以上は審査するのか、しないのか。「3段階でクリアしたもののなかで、さらに栄養士が選択する」と言っているのか。

「3段階でクリアしたものはどれでもOKだ。心配しないでくれ」といっているのか。どっちなのか。

教) 3段階で選んだ中でもさらに比較をして栄養士が選定している。

ナ) 3段階でクリアしたからOKということではない。

教) その通りであり、もう一歩先までやっている。

ナ) 課長もその解釈でよいか。

教) はい。

委) 私は個人的にコンビニとかでは食材を購入しない。コンビニの食材より特段にいいものを使っているということであれば、尚更公表するべきではないのかと思う。

コ) 「一般ではこれだけ使用しているが、給食はこれだけです」というような公表の仕方ができる。

座) 税金というが、一般企業でいえば企業努力で賄う部分であって、そこに人件費等と言っていること自体が私からしたら滑稽である。企業であれば、日常のサービス、仕事をしていて、課せられる仕事はたくさんある。ただし、それをやったからと自分の給料が

上がるわけではなく、時間が過ぎるようであればサービス残業だろうとそれをこなすのが一般企業である。行政にいるから時間やお金がないからできないという話ではない。一生懸命頑張っていこうというのがこの会議であるのに、市のやる気が見えてこない。

あと、課長は食品添加物について世の中がどれだけ興味関心があるか全くご存じない。もうちょっと世の中をみたほうがよい。

ナ) 税金というが、教育委員会の職員が事業仕分けの際に3人出てきて、誰も一般会計総額を知らなかった。それで市民がこういうことをやれないかと言ったら税金をかけていいのか…と、よく言いますよ。

委) 昨日の経営改革で予算の話は十分にやった。予算がいくらかなんてわかっているはず。仕分けでいくら削減できたか答えられるか。配布の資料を見ていればわかるはず。市民でもわかる話なのに、職員が内容を知らないなんて、要するに、そんな人が添加物のことをわかるはずがない。誰もお金使ってほしいなんて言っていない。

栄養士がちょっと見て書いてくれればできる。私は食生活改善推進員をやっていたのでよく分かる。昔、クリスマスのときに作ったものが、子どもたちが喜ぶと思って飾り付けしたものが「県に出す絵と違うからはずしてくれ」と言われた。結局、県の指示通りに飾りをはずして、わざわざ写真とって。子どもは全部残していた。そのことを書いた私の報告は削られていた。

コ) 富津市がどうやって市を維持しながら、皆が幸せな富津市民になるか。これを考えることが一番大事である。行政と市民がどういう役割分担をしながらやっていくのか。いまそれを模索していかないといけないと思う。なぜかという、行政側で手におえない財政状況になってしまっていることは皆さんご存じであり、それが富津市の一番の問題。だが、市としてやらなければいけないことはあるわけである。金がないからと言って、これは辞めると切れるものはあると思うが、それでやめられては困ることもある。それを誰がやるのか、税金投入してでもやるということであれば市民から税金をいただかなければならないし、真剣に考えていかなければならないのが今の富津市なのだと思う。

ナ) 私はその意見に同意できない。お金がないから市民にやってもらうという発想はそもそも違う。

コ) お金がないからやってもらうではない。元々市民との協働を考えていく中で…。

ナ) 今の話は、富津市財政厳しいから「税金を使わず市民とやる」。そういう発想は、私は違うとっていて、「市民と一緒にやるほうが良くなる」から、お金が余っていたとしても、「市民と一緒にやるほうが良いものになる」からではないのか。栄養士が暇であっても、市民が工夫してやった方がよい発表になるから、市民にやってもらった方がよいと思う。行政はやらないといけないことはお金がなくなるとやらなければいけない。そこを市民には頼れない。

教) やらないということを言っているわけではなく、現状では難しいということで、コストがかからない中で検討している。

ナ) 今の議論でその認識は改めていただきましたよね。

教) 税金の使いみちの優先度を考えていった中で、当然ニーズが高いものは税金を投入してでもやっていかなければならないもの。その中で市民に協力いただいて公表できるの

であれば一番良いことだと考える。

座) ホームページで告知したと考えた場合、富津市の特色として市外の人たちから「富津市は良いところだ」と認められ、住民が増え、人口が維持できる。こういう転換はできないのか。富津市の特徴の一つになるのではないか。では、やってみようという転換にはならなかったのか。

教) 個人的な意見で良いか。

座) はい。

教) 私は普段料理をしないので食品添加物については良くわかっていないが、他市で取り組んでいない、公表していないものを富津市でやろうとした場合、細かく数値が出るということならいいが、中途半端に表示されて不安をあおってしまうのではないか。だったら、「富津市の給食は安全だ」という不安要素ではない部分をアピールしていったほうが良いのではないかと思う。例えば、富津市に限らず他の自治体でも地産を考えているが、富津市の特産のものを使った料理をPRするとともに、子供たちにおいしい給食を提供している等々のプラス要素をホームページ上にアップしていったら良いのではないかと思う。

委) そのアピールは今やっているか。そんないい案があるならやれば良いのに。

ナ) 良いと思うが、既にやっている自治体はある。それは先行してやっている市に追いつくだけ。本当に人口減少時代にファミリー層呼んでくるなら、他がやってないことに取り組まなければ呼べるわけがない。

コ) 食品添加物の情報を公表することはネガティブPRにはならないと思う。

委) 知りたい人はいっぱいいる。

座) 添加物が入っているとされたからって、給食を全部食べないわけではない。気にする人は大体数項目が決まっていてそれだけしか見ない。逆に隠されると信用できなくなる。

コ) 一般に流通している加工食品にも当然添加物が入っているが、それと比較して「給食はこれだけ少ないものを使っている」とプラスのPRになると思う。

委) TPPの話題もあり、転換期である。子どもが学校に通っている親としては旬の話題である。

事) 添加物に限った話ではないが、知り合いと話をしていて、法令によって、おおよそ全国一律であるにも関わらず「富津市は税金が高い」と言われる。それは何故かとずっと考えていたが、市はできる限りのことは努力してやらせてもらっている。しかし市の事業や活動が伝わっていない部分が多いのではないかと個人的には思う。市の外だけでなく内側に対するシティープロモーションも絶対的に必要だと感じている。

ナ) シティープロモーションをやるにも売りが必要。TPPの話もあるし、絶好の機会ではないか。

事) ナビゲーターの言うように、シティープロモーションをやるうえでエンターテインメント性が大事だと考える。市民がやると楽しくなるというのはすごく思っているところで、反面、市がやるとつまらなくなる部分がある。今回、市民主導で花火大会が開催されたが、個人的に良いことだと思っている。それは、市民がこうやったら楽しいのではない

かと発露になっているところがある。どうしても、市が事業を継続していくうえで、決まったことをやることでコストカット等を考えるが、エンターテイメントという観点から市民のお力を借りられるということは大事なことだと思っている。できるということはこの場に限らず、市に対して私たちが協力できると思っているところがあればご意見いただきたい。

委) 八丈島ではジャズフェスティバルというものがあり今年で3年目を迎える。そこでは、小中高校生がプロと共演して島をPRし、成功している例がある。

また、二つ目として、船橋のアンデルセン公園はご存知か。市営の公園なのだが、アジアの人気テーマパークの10位に選ばれている。市民の協力もあり、少しずつ公園を広げ整備していったとのこと。

三つ目に、県の補助金でドラマの制作があり館山が手を挙げて採用された事例があるドラマを通じて富津市をロケ地としてやったらどうか。

とにかく、外に目を向けることが大事。オリンピック関連であればキャンプ地を招致することとかも考えられる。そのようなPRによって、富津市も全国ネットになり、交流人口が増えてくるのであって、始めから3万5千に設定しなくても良いのではないか、市が潤えば。

事) 定住施策はファンビジネス的な部分があり、ファンになってもらうのはすごく大事だと思っている。

委) 富津公園というとても良い公園があり、ここを中心として、先に挙げたように力をいれていったらどうか。お金に関しては、市議会議員を3人減らせば良いし、それが駄目なら市民に基金を募っても良いと思う。イベント計画を立ててみるのもいいと思う。婚活にもつながる。

事) イベントの企画段階で、市民の参加があるのは良いと思う。

コ) それでは、意見提出シートの記入をお願いしたい。第3分科会のテーマではないが、ただいま挙がった意見等も書いていただいて結構である。

コ) 富津市はオリンピックに向けて何か取組みはあるのか。

事) 具体的に話が出ているものはない。

教) 近隣4市で協議会を開き、検討しているところである。

コ) 偶然だが、小田原市では、ラグビーの全日本チームの合宿地ということで競技場の改修を進めている。その提案をしたのが今年の春先だったが、その時は「そんなの人が来ないだろう」と言われていたが、ここに来て急にラグビー人気が高まっていて、市長は喜んでいる。そういうことに限らずオリパラは利用しないといけないと思う。このことについては、早く手を上げないと駄目だと思う。

ナ) 私は、ここで辞任します。ありがとうございました。

コ) そのほかにも小田原市では、市民提案型の事業というものをやっていて、「市民の手でこういうことをやりたい」と他の市民や行政の前で提案して、採用されると補助金が交付される、という事業の枠をもっている。そういうのも面白いと思う。とにかく地

域住民が活躍できることをどんどん考えていかないと、これからはいけないと考えている。このような事業はそんなに大金を使う必要は無く、それによって地域の活動が活発になって大きな力が生まれてくる。そういったことを総合戦略では出していただきたい。小田原の話ばかりであるが、市長が「地域のコミュニティを作らなければいけない」ということで、連合自治会という団体があって、連合ごとに地域コミュニティを作って、そこで「どういう活動をしていこうか」を話し合っ、地域コミュニティを高めようということをやっている。これは良し悪しがあって、地域がやる気になっているところはどんどん進んで行くが、やらされ感があるところは駄目なんですね。仕掛けとしては面白いが、全部が成功しているというわけでもない。だけど、上手くいっているところもある。仕掛けることが大事で「1つでも上手く行ったら良し」というくらいで仕掛けていかないと。

行政は「お金かけたから絶対に成功しなければいけない」という呪縛があって、「もしかしたら成功しない部分があるから止めよう」というところがある。その考え方を変えないと、「少くも無駄金使っても良いじゃん」というくらい開き直らないと新しいことはできない。私も「そんなことやって大丈夫なのか」という考え方からスタートしてしまうので、行政にも山師（山を歩き回って鉱脈を見つけたり、立木の売買をしたりする職業の人。山師のように投機・冒険をする人。）のようなところがあっても良いのかなと思う。

いろいろな自治体に事業仕分けで行くが、やはり行政は守りが堅い。「確実にいきたい。失敗して市民に言われたくない」と。ただ、それは市長が腹をくくればいろんなことができると思し、提案をどんどんしたら良いと思う。

そうすると、市民もあまり失敗のところだけを責めずに、「こんなに、市はこういうところにやる気になっているな」と、そういうところを評価することも大事だと思う。失敗だけを責めているとだんだん行政は萎縮して行って、失敗の無いことばかりやることになる。

委) 職員の中でも、若い職員で一生懸命やっている人はたくさんいる。幹部が駄目だ。

コ) 決してそんなことは無いとは思う。

委) 頭が固すぎる。責任があるからだとは思いますが。若い人のプロジェクトも潰されかかっていると聞く。

事) それはどんなプロジェクトか。

委) 副市長がトップになっていると、経営改革会議では言っていた。

事) 経営改革推進のプロジェクトチームのことですね。

委) そう。ストップしてしまっているというようなことを言っていた。

コ) 総合戦略を作るこのプロセスが、皆さんの意識が変わってくる良いきっかけになると私は思う。是非そうならなりたい。

「富津市なんてどうなったって良い」という意見を持っている人は誰もいない。やはり「良い富津市にしたい」、そういう思いは皆さんもっているもので、その点お互いに信頼し合えるところは信頼しないと、行政と市民は上手く行かない。

そういうところは、先ほど事務局が言ったとおり、情報を上手く発信することは非常

に大事である。特に市民に対して。その辺が上手くいっていないということであれば、いろいろと考える必要がある。

コ) 提案の会議は今日が最後。是非言っておきたいということがあれば記入していただきたい。次回は皆さんが提案したものが、総合戦略の素案としてまとめられ、それが創生会議にかけられて、その中で手直しがあるかないかはわからないが、次回29日に市民委員の皆さんに示される。そこで、また意見等の場を設ける予定である。

そういったところで、今まで改善提案シートに出てきた意見やそこに無かったものでもかまわないので、数多くの意見をだしていただきたい。ただ、出てきた意見が全て通るという訳では無いが…

委) 意見提出シートに書かなくても、今までの改善提案シートで出ていた意見は生かされるのか。

コ) もちろんです。

事) はい。

座) 過去の意見で、市街地は市街地で、過疎地は過疎地でという、2つの区域に分けたまちづくりという課題が一覧の中に無い。

委) 意見提出シートの課題一覧ではなく、資料3に載っている。

事) 表現が少し変わっているが、資料3の16ページ中段に「区域を分けるなどをして、住民の希望がかなう方法を考える。」という記載がある。

座) 良い意見だと思う。他の分科会では討議があったのか。

事) 他の分科会からも、同様に「地域ごとに特色を出す」という意見があり討議があった。

コ) それでは、意見提出シートを記入いただいた方から解散とする。本日はありがとうございました。

第6回市民委員会 第4分科会 討議概要

平成27年11月8日 午後3時40分～午後5時 場所：504会議室

出席委員：9人（全20人）

コーディネーター：石渡秀朗 ナビゲーター：土屋龍一郎

事務局：企画課 牧野、高橋
財政課 白石

【テーマ】 産業・雇用 ～市の産業・仕事を創る～

コ) 本日が総合戦略の素案を作成する前の最後の会議である。そこで今日は、この第4分科会として、人口ビジョンについてどういう意見を残していければいいかということと、今までこの分科会で議論したことをとりまとめた「まち・ひと・しごと創生 総合戦略策定のための提言書」（素案）を作成したので、その内容の確認をしていきたい。

前回質問事項について

◎大貫中学校区の転出者が天羽中学校区に比べ多い理由

（参考） 大貫中学校区：人口約1万人、約4千世帯

天羽中学校区：人口約9千人、約3千9百世帯

市) 両中学校区転出者のアンケートから転出理由を調べた中で、結婚を理由としての転出者数については大貫中学校区のほうが天羽中学校区より多いことなどがわかったが、調査対象期間が今年の4月から8月までと母数（回答者数）が少なく、現在のところ明確な理由の提示はできない。しかし、アンケートはとり続けているので、今後も継続してデータを収集し、分析をしていこうと考えている。

コ) この分科会から出た質問なので、分析結果については報告していただきたい。次回の会議（11/29）までに分析は可能か検討願います。

◎空き家情報の把握に関する警察との連携の可能性

市) 空き家全般の施策に絡めて検討したい。

◎民泊の法規制と規制をくぐりぬける方法

市) 保健所に確認したところ、宿泊させるには旅館業の許可が必要で、特区申請により民泊を可能にするような動きは千葉県には現段階ではない。民泊とは別に、農家民宿というものがあり、旅館業の許可が必要だが、一般の民宿と違い農業体験などを宿泊者に提供することにより、客室の面積要件などが緩和されるものもある。

コ) 市で特区申請できるかの確認と、農家民宿についての資料を次回提出願

ます。

委) 現在ある旅館業者と競合しないか。

コ) 観光入込客数のうち、宿泊を伴うものの数字はあると思うので、地区別に何人の観光入込客数があって、そのうち何人が宿泊しているか、対応している旅館の数を次回提出願います。

◎半農半Xをやるため農地（耕作権）を取得する方法

市) 農地の権利取得に際して、一般的に50アール（5,000㎡、約5反歩）以上の農地面積（下限面積）を耕作することが要件で、各自治体の農業委員会で下限面積を設定できる。富津市でも原則的には50アールで設定しているが、市の北部では一部40アールで設定している所もある。千葉県内でも、南房総市などでは下限面積を20アールに下げて設定している所もある。

また、島根県では半農半Xに対する支援制度があり、一定の要件を満たせば研修経費や営農経費の助成が受けられる。そういった支援があれば就農者を増やす方策の一つになる可能性はあると考える。

コ) 下限面積は市の農業委員会が議決案件として決定するが、議案を提案するのは行政か。それとも委員提案でなければいけないのか。

市) 提案権は市長にある。— 農業委員会会長が議案を定める。（訂正）

ナ) 民泊の話は世間で話題になっている中で、富津市は観光資源が幾つかあるにもかかわらず宿泊施設が手薄だということになれば、民泊という手法について、法規制があるかもしれないが、それとは別のところで何か知恵を出して考えられないかなと思う。

半農半Xについては、これ1つでも可能性の感じられるテーマであるが、他の提案と結びつけて考えることも可能であり、先の民泊も含め、もっと情報やデータがあれば検討を深めることができると思う。

人口ビジョンについて

コ) 人口ビジョンの議論については不完全燃焼の部分があり、その理由として人口3万5千人のまちのイメージがつかめないため、評価が難しいことにある。そのため、イメージがわくような材料として類似団体の資料を作成した。

委) 今日の全体会の様子をみていると、市民委員会で人口ビジョンを議論するのは難しいという印象を持った。

コ) 人口ビジョンの議論をするのは今日で4回目だが、過去3回の議論では人口ビジョンの是非を評価することが難しい。なぜなら人口3万5千人のまちがどういうまちであるかの説明がない。説明は難しいと思うが、その説明がないと3万5千人が良いか悪いかの議論はなかなかできない。

委) 将来人口を3万5千人に設定した根拠がよくわからない。なぜ3万5千人必要か、今まで説明はあったかもしれないが理解できない。

- 市) 社人研が算出した人口推計によると 2040 年に富津市は人口 3 万人になる。人口ピラミッドを見ると若年層が減少しているため逆三角形になっている。そうすると次の世代はさらに減少していくことが予想されることから、若年層の減少に歯止めをかけるため、ファミリー層の転入を増やし、出生率を上げるなどして仮定の数字を入れた結果、3 万 5 千人という数字となった。
- 委) 全体会でも話があったが、それは希望的な数字であり推計ではない。
- コ) 人口ビジョンを作ってそれに向けて総合戦略を策定すると、交付税措置や国からお金がもらえたりするため、全国の自治体でも同じようなことをやっていることも事実であるが、現実として推計の数字を出さないと、議論するのは難しい。
- 委) 将来人口について、現状を維持したい思いから 3 万 5 千人と設定したが、明確な根拠もないため現実的には無理がある。人口が減っていくのは事実であり、人口が 3 万人になっても生活できるかを考えていったほうがいいと思った。
- 市) 社人研の算出した将来人口 3 万人は、~~社会増減を含まない~~で(訂正)人口増減について今までの傾向が続くと仮定し、このまま何もしなかった場合の推計の数字であり、それではいけないので市としては少しでも人口が減ることを防ぐため、個人的な見解になるが 3 万 5 千人という数字は努力目標という部分もあると思う。
- コ) そのとおりであり、委員の皆さんもそのことは理解していると思う。しかしながら、3 万人になったときにどういうまちになっているかがわからないため、このままではまずいという危機感がわからない。また、人を増やしていく方策は色々あるだろうが、人を増やしてどうなるのかさえもわからない。政策の良し悪しは議論できるが、その政策により例えば 100 人増やしたことによって、それがどういう目的のために 100 人増やすのかがよくわからないので議論が不完全燃焼になってしまっている。委員の皆さんの議論は本質を捉えており、行政の希望ではなく、本当に何が必要なのかを議論したいと思っている。
- 委) 行政が人口減少に歯止めをかけるために色々と考えてくれていることはわかるが、このまま人口が減少して田舎になっていって何が悪いかがわからない。
- コ) わからないという意見が貴重であり、田舎であっても田舎の魅力はたくさんある。
- 委) 第 1 回の市民委員会で、花田虎上さんが富津に引っ越してきて不便なことは思いあたらないと言っていたが、私も同感である。仕事があることと車を運転できるということはあるかもしれないが、富津に引っ越してきて得たものはあっても失ったものは何もないと感じている。
- ナ) 人口増加策は基本的な考え方としてあるが、それと幸福感ということについての議論を切り離して話したほうが委員の皆さんの意見が活きてくるので

はないかと思う。

委) 人口ビジョンは目標値を算出しなければいけないのなら、3万5千人でもいいと思う。数値ばかり気にして、人口を増やすとか転出者を減らすとかの話になると私にはよくわからないが、人が住むにあたり、地域コミュニティが中心となるわけで、そこがしっかりしていれば、お祭りも続けていけるし、公共交通がなくても高齢者が多くなっても地域で支えあっている。そこに行政が少し力を貸して地域住民の幸せ度を上げていくようにできれば、愛着心も湧くし、転入者の増加にもつながると思う。

委) 現在の人口から3万5千人になった場合と3万人になった場合のマイナス面をある程度提示してもらわないと3万人と3万5千人の違いがわからない。

委) 富津市は企業からの固定資産税が他市に比べ多いため、企業の投資がこの先あったと仮定して、人口が減ってもその割には税収が確保できるのであれば、その分を公共交通やライフラインの補てんなどに充て、有効活用することができると思う。

市) 税収の確保について、企業は将来の動向がわからないので、撤退などを考えると安定しているとはいえない。それに対し個人の住民税はある程度平均しているので安定しており、そこが確保できるのが一番いいと思う。

コ) 企業城下町という言葉があるが、それだと不安定であり、住民税は人が増えれば税収が上がる構造なのでそういう体質に動かしたいという話だが、それが市の方針として決まっているのであれば、3万5千人の根拠として個人住民税がいくらで企業の税収がいくら減って、だからこういうまちになるといったシミュレーションを示してもらおうとわかり易いが、そういったものもない。そこが問題である。

提言書の作成について

コ) この分科会で皆さんからいただいたご意見は、議事録、検討材料シート、改善提案シート、意見提出シートに記録されてはいる。しかし、それがほかの分科会と合わせた市民委員会全体のとりのまとめとして1つになると、内容が簡潔になってしまうため、正確に伝わらない可能性があることや、それだけでは思いを伝えきれない部分があり、その中には重要なキーワードがあるし、色々な意味がある。そこで第4分科会で議論した意見を提言書としてまとめたらどうかというのが私からの提案であり、約半年間、みんなで議論した内容を残したいという思いから、今回この提案書(素案)を準備させていただいた。

提言書(素案)には「政策提言」という表現で委員の皆さんからのご意見を掲載している。現状の制度的な問題や、法律の問題がある場合はその改正の手続きや時期、予算などを検討したうえで「政策提言」と本来は言うかもしれないが、この会議では、皆さんからのご意見を政策的に実現するためにはどうし

たらいいかという議論は、時間が足りないこともありできないと考える。しかしながら、今回皆さんからせつかく貴重なご意見をいただいております、このご意見を埋もれさせるわけにはいかないので、このような表現での掲載をお許しいただきたい。

提言書を作成するにあたり、分科会の委員名簿として提言書に委員のお名前を掲載してよいかの確認をしたい。委員のうち、1人でも反対されると掲載できないことを前提に、事務局にて分科会委員全員に確認していただきたい。

提言書はまだ加筆をしなければいけない部分もあり、今日の議論を踏まえて校正した成案を次回の市民委員会（11/29）で議論するため、事前に皆さんにお届けするのでお目通しいただきたい。

また、次回の市民委員会では総合戦略の素案が創生会議を経て市民委員会に提出され、議論することになる。今まで皆さんが議論したご意見も当然創生会議には伝達されているが、11月18日に創生会議で総合戦略の素案作成に向けて議論がされる際に、この提言書も第4分科会の成果として創生会議に提出したいと考えている。それには時間がないので、今日お集まりの皆さんに、校正がこれから加わって、未定稿だということを承知のうえで今の状態（委員名は未掲載）の提言書を提出することのご承諾をいただきたい。（委員の承諾あり）

その他

委) 市民委員会・創生会議において、市議会議員の位置づけはどうなっているのか。

市) 策定した案を議会の全員協議会の場で説明し、ご意見をいただく予定である。

委) 議会には議案として提出するわけではないのか。

市) はい。

委) もし反対されたらどうなるのか。

コ) 市民委員会・創生会議を経て策定した総合戦略（案）を2月の中旬に市議会に提出しご意見を求める。そのご意見を市長がどう反映させるか判断して最終的には市長が決定し公表する。そこで、市議会議員と市長との調整の機会はどういうことを想定されているのか。

市) 今までの総合計画では全員協議会の場で調整している。

コ) 1日だけか。

市) 議会から1日では足りないということであれば、もう1日設けることは考えられないことはない。

コ) 資料は事前配付か。

市) 資料の分量にもよるが、ある程度の量になれば事前に配付したいと考えている。

委) この計画の進行管理はどうなるのか。

市) 検討中である。

委) 決まったら教えてほしい。

委) 市民委員は2月上旬に開催される市民委員会をもって解散になるのか。

市) 予定では総合戦略の策定をもって今回の市民委員会は一区切りとなる。

委) では、いくらここで議論をしてもその後のフォローはできないということか。

市) 計画(人口ビジョン・総合戦略)の進行管理について、今の時点では未定であるが、実際の人口の動態や状況の変化に応じて見直しをかけていく。その見直しのタイミングで今回の市民委員会のような形式をとるのか、市民に対して説明会を開くのか、あるいはパブリックコメントになるのか、手段はいろいろ考えられるが今の時点では未定である。

ナ) 各分科会で具体的な提言が出ているなか、市はそれを受け止める受け皿になるつもりがあって、計画の見直しをするのか。

市) そもそも市民委員会で議論したご意見をもとに戦略をつくることを考えており、それが市の戦略になるという認識である。行政が作った計画を、パブリックコメントなどで皆さんに見ていただき、意見を聞く機会をつくるというのが今までの行政のやり方だと思うが、それでは今までと同じだということで、今回は富津市としてこういったものがないのではないかと計画の骨格さえ作っていない状況であり、市民委員会・創生会議から出たご意見をまとめあげて戦略にしていく方針である。

コ) 総合戦略という計画ができた後、その計画の進捗に市民の監視が必要であり、それに参加させてほしいという貴重なご意見をいただいているが、それはまだ未定ということによいか。

市) 市民の皆さんには、計画の作成段階から携わっていただいているので、これから見直しをかけていく、進行管理をしていく中で監視は必要であり、市民の皆さんの声をいただく形はとりたいと考えているが、そのご意見、監視をどういう手段でとるかということが未定ということでご理解いただきたい。

コ) 今の話から、提言書に進行管理において監視をさせてほしいという意見を追加で掲載したいと思う。

まとめ

ナ) 市民委員会を通して、市民の皆さんのアイデア、情熱や危機感が感じられた。全体会でも意見が出ていたが、質問に対するレスポンスがもう少し早くできるのではという要望もあり、市民の皆さんのそういった思いを市のほうでも受け止めていただきたい。そういった意味でこの提言書については、市に提出するなかで活かしてほしいし、総合戦略策定後も活かせるものとしてこの第4分科会で出た意見を埋もれさせないようにしていただきたい。

コ) 今までの委員の皆さんからのご意見は、総合戦略に掲載されるという大前提があるわけだが、意見の中にはベクトルの違うものもあり、この機会での制度の検証はなかなか難しい。そのため、すべてのご意見が掲載されるということは不可能だと思うが、それを踏まえて反映させていただきたいし、この提言書も委員の承諾が得られれば公表してもいいと思う。そういったことも検討していただきたい。

【質問・要望事項】

- ・ 大貫中学校区の転出者が天羽中学校区に比べ多い理由
- ・ 空き家情報の把握に関する警察との連携の可能性について
- ・ 民泊について、市で特区申請ができるかの確認
- ・ 農家民宿についての参考資料
- ・ 地区別の観光入込客数（宿泊を含む）と旅館数
- ・ 提言書に委員名簿を掲載することについて分科会委員への確認